



一般社団法人 日本地下鉄協会

地下鉄短信 (第669号) 令和8年1月20日発行

編集 (一社) 日本地下鉄協会 責任者 和嶋 武典
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



日本地下鉄協会

記事 ○ 「令和7年度地下鉄事業現地見学会」の開催

○ 「令和7年度地下鉄事業現地見学会」を開催しました。

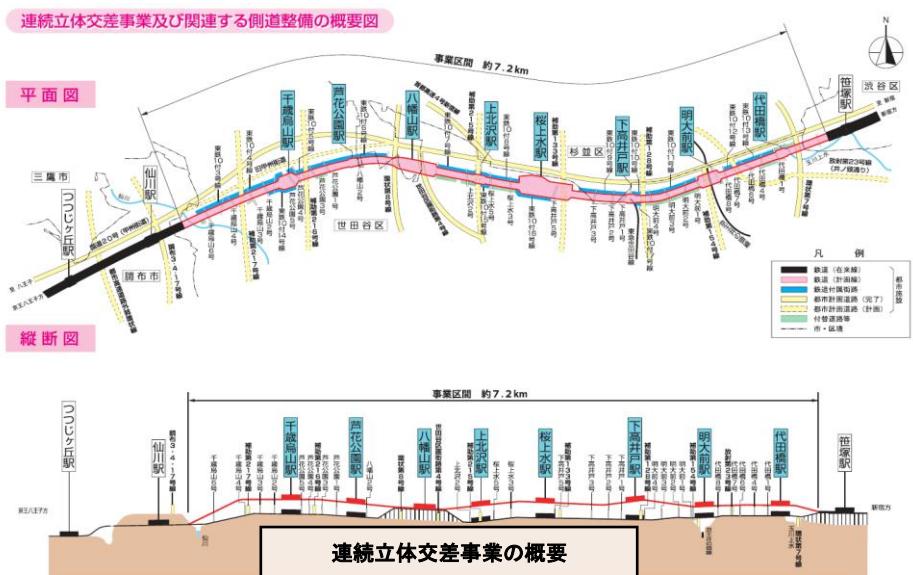
令和7年12月17日(水)に、「令和7年度地下鉄事業現地見学会」(以下、「現地見学会」という。)を普通会員、賛助会員、及びリニアメトロ推進本部会員の19名を含む25名の参加を得て開催しました。

現地見学会は、地下鉄および鉄道事業者等のご協力の下に、会員各位の啓発の場として、また会員相互の交流の場として、平成11年度から毎年度実施してきたもので、昨年度は、大阪・関西万博会場の最寄り駅になった大阪メトロ中央線「夢洲駅」について、大阪市高速電気軌道(株)様、(株)大阪港トランスポートシステム様のご協力により、令和7年1月19日(日)の延伸開業直前に開催しました。

今回の見学会は、京王電鉄(株)京王線 笹塚～仙川駅間 連続立体交差事業に係る見学会を京王電鉄(株)様のご協力により開催したものです。

「京王線 笹塚～仙川駅間連続立体交差事業」について

京王線 笹塚～仙川駅間 連続立体交差事業については、東京都が事業主体となり、世田谷区、渋谷区、杉並区、京王電鉄(株)と連携し、京王線の笹塚駅から仙川駅までの約7.2kmの区間に、道路と鉄道を連続的に立体交差化することにより、25箇所の踏切を除却し、あわせて側道を整備する都市計画事業です。



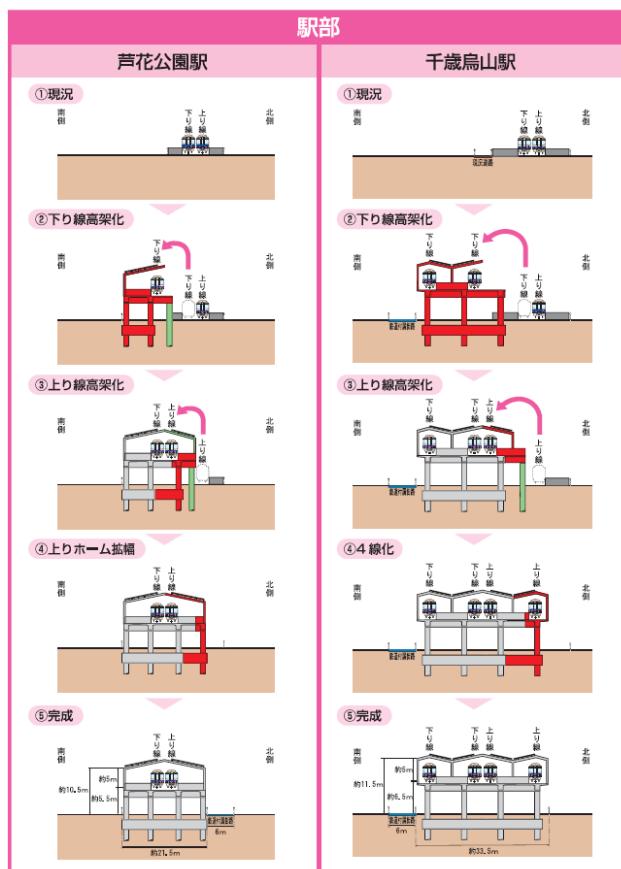
今回の見学会では、鉄道事業本部計画管理部、同工務部連続立体交差工事事務所のご協力により、多数の関係者の方から工事概要説明、現場説明をいただきました。

この工事計画では、現在の高架駅である笹塚駅、八幡山駅、地下駅である仙川駅を除く7駅の高架化がなされ、明大前駅と千歳烏山駅は2面4線に拡張し、桜上水駅では現状同様の2面4線と2本の車庫線を高架化します。令和6年度には全工区で工事着手となり、工事も佳境を迎える中の見学会となりました。

基本的に駅間部は、現在の上下線の横に用地を確保し、下り線の高架部を構築し下り線を移設、その後、下り線のあとに上り線の高架線を構築して、上り線を移設して完成であり、駅部も同様な手順で移設となります。

そのような中、計画区間の工事の特徴としては、仙川に係る橋りょうが複線橋りょうのため、上下線同時の撤去とすることになり、現在の線路直上に仮線を構

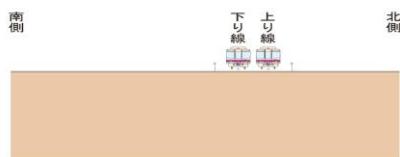
凡 例 ■本設 ■仮設 ■施工済 (新宿側から、京王八王子方面を見た図です。)



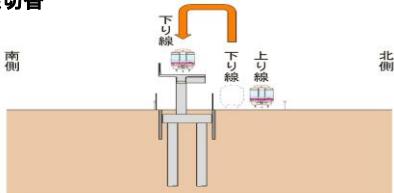
事業の概要

- 京王電鉄京王線(都市高速鉄道第10号線)
 - ①事業区間 … 笹塚駅～仙川駅間
 - ②構造形式 … 高架式(嵩上げ式)、掘削式
 - ③延長 … 約7.2km
 - ④駅施設 … 代田橋駅、明大前駅、下高井戸駅、桜上水駅、上北沢駅、八幡山駅、芦花公園駅、千歳烏山駅
 - 1)ホーム延長: 各210m
 - 2)ホーム幅員: 約2~10m
 - 都市高速鉄道付属街路(東鉄10付3号線～東鉄10付17号線)
 - 幅員: 6m～19m 路線数: 15本
 - 付替道路等
 - 幅員: 4m～11m 路線数: 10本

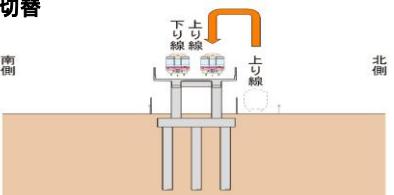
①現況



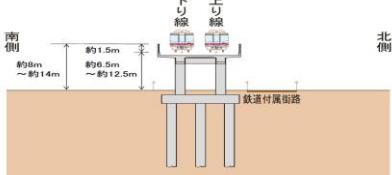
②下り線切替



③上り線切替



④完成



駅間部の高架化手順

築してから、下降させて切り替える「ストラム工法」が採用されている点です。

今回の見学では、芦花公園駅付近の第6工区、千歳烏山駅付近の第7工区、およびを「ストラム工法」の第8工区を見学させていただきました。

今後、工事が進むと、左図のように、芦花公園駅と千歳烏山駅の高架化がなされますので、参考に記載します。

芦花公園駅付近第6工区の見学

芦花公園駅では、現在、南北自由通路を持つ橋上駅の撤去から高架化工事が始まるため、事前に自由通路を線路の地下に構築する工事から進められています。

また、現在高架駅である八幡山駅側は、すでに環状8号道路との立体交差工事で高架化され、現状、地上駅である芦花公園駅に向かって降下していますが、新設する高架躯体は現状の高架部分に取り付いて高架化を行うため、線路横の用地で、基礎杭工事の施工前準備が進められています。

千歳烏山駅側は駅間部高架工事となっています。



芦花公園駅の八幡山駅側用地における準備工事



芦花公園駅の地下自由通路構築工事

千歳烏山駅付近第7工区の見学

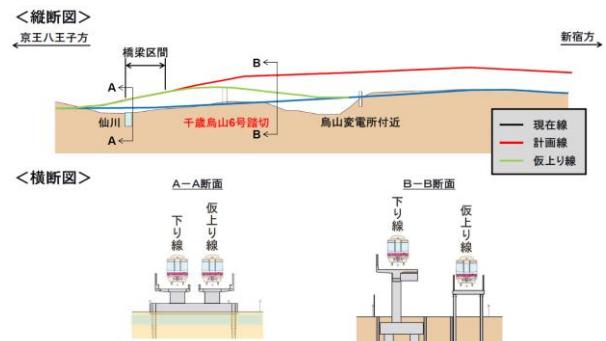
千歳烏山駅の仙川駅側は、駅間部の高架が構築されており、構築された高架上に上がって高架の状況を見学したところ、軌道を敷設する基盤が構築されていました。



千歳烏山駅の仙川駅側駅間部高架上

千歳烏山駅の仙川駅側取付部第8工区の見学

千歳烏山駅と仙川駅間では、仙川に架かる橋りょうを越えたところで現在の線路に接続されます。この接続のため、現在の線路部分に高架を構築すると同時に、仙川の橋りょうが上下線一体構造の橋りょうとなっているため、上下線同時に接続して、仙川に架かる橋りょうを撤去する必要があります。このため、「ストラム工法」と呼ばれる現在の線路直上に仮線を設けて、高架部の基礎工事に入ります。現在仮線用の支柱が建ち、仮専用の桁を設置する工事が毎夜、実施されているそうです。



仙川駅側取付部の仮線工事の全体図



仙川駅側取付部の仮線工事の見学状況

今回は、2チームに分かれて、2駅付近の工事状況を見学しましたが、概要説明含めて3時間という短時間にもかかわらず、多くの現場を見学させていただき、事前工事、基礎工事から、高架構築、さらには、現在の線路直上に仮線を構築する「ストラム工法」と、多岐にわたり紹介いただきました。

参加者からは、各現場で活発な質疑がなされ、ややハードな行程ではありましたが、有意義な見学になったのではないかと、考えます。

最後に、業務多忙な中、このような「京王線連続立体交差事業」を見学できたことは、京王電鉄の皆様のご協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: wajima@jametro.or.jp